

環境改善に資する鉄道建設事業を資金の使途とする  
「グリーンボンド」の購入について  
～「神奈川東部方面線」の建設事業を支援します～

株式会社 建設資源広域利用センターは、首都圏において大量に発生する建設発生土のリサイクルを進めることにより、自然環境への負荷軽減と建設コストの縮減に寄与しております。

また、当社では、首都圏における自治体の緑化事業や、NPOの環境改善事業への支援などによる社会貢献にも努めて参りました。

この度、こうした取組をさらに進めるため、新たに、CO<sub>2</sub>及びNO<sub>x</sub>の排出量削減に効果がある「神奈川東部方面線」<sup>※1</sup>の建設事業を資金使途とする「グリーンボンド」<sup>※2</sup>（発行体：独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の購入を行うこととしましたので、お知らせします。

今後とも、建設事業に関わる土の適正処理と有効利用の一層の推進に努めるとともに、循環型社会づくりに貢献する取組を積極的に支援することなどにより、当社に課せられた社会的使命の達成に向けて、取り組んでまいります。

※1 「神奈川東部方面線」は、相鉄・JR直通線（相鉄本線西谷駅～JR 東日本東海道貨物線横浜羽沢駅付近までの連絡線：約 2.7km）及び相鉄・東急直通線（JR 東日本東海道貨物線横浜羽沢駅付近～東急東横線日吉駅までの連絡線：約 10.0km）を指します。

この路線の開業により、バスや自動車から同路線に旅客が移転し、年間約 1,800 トンのCO<sub>2</sub>及び約 18 トンのNO<sub>x</sub>が削減されると推計されています。

※2 「グリーンボンド」とは、一般的にCO<sub>2</sub>削減等の環境改善効果を有する事業を資金使途とする債券です。国際的に広く認知されている国際資本市場協会（ICMA）が策定するグリーンボンド原則（GBP）の内容との整合性に配慮して環境省が策定した「グリーンボンドガイドライン」（平成29年3月）にその概要や期待される事項が示されています。

今回購入するグリーンボンドは、環境省グリーンボンドガイドラインへの準拠を第三者機関が確認したモデル発行事例として初のグリーンボンドになります。

<購入するグリーンボンド>

名称：鉄道・運輸機構グリーンボンド  
（第109回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券）  
期間：10年（2027年11月26日償還）  
購入額：1億円